



## 無公害、低コストのゴミ処理技術

### 画期的な解決法となるか

これまで聞いたことのない「熱分解による有機廃棄物処理」。いったいこれはなんだろう、初めは少し疑わしくもありました。しかし、離島のゴミ処理は今も多くの課題を抱えているので、何でも見てみよう、山下崇議員の発案で、奥山博文議員と3人、2月の雪の日に名古屋の食品加工会社でERC M（次世代型廃棄物処理装置）が稼働している様子を見てきました。

**ゴミ処理の過程** 装置を稼働させる前に、加熱した炭とセラミックを装置の底に敷きつめ、これを熱源とします。その上で、①廃棄物を入れると冷却用の空気が入り廃棄物を乾燥させます。②さらに冷却用空気を入れて乾燥を進めます。③乾燥させた廃棄物は下からの熱で分解され、無酸素の状況下で炭化していきます。④熱分解用のマイナスイオンの空気が送り込まれるとさらに分解が進み、⑤最終的にセラミック状の灰が残り、始めの量の1/100~1/500にまで減ります。

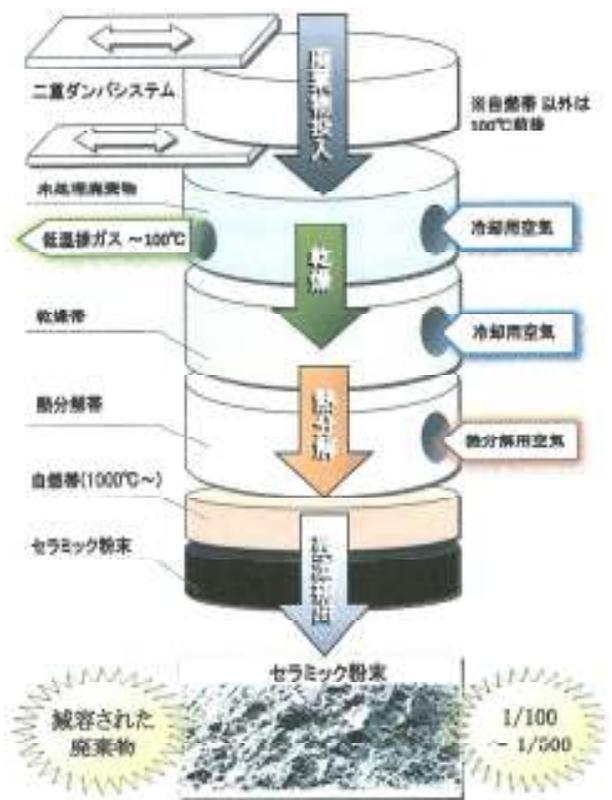
**セラミック灰は** 残ったセラミック灰は業者が1kg21円で買い取ってくれますが、送料は利用者の負担になります。量が少ないので相殺されることが多いようです。結果、ゴミは手元から消えることとなります。

**低コスト** 補助燃料がいらぬ、超省電力、炉内が低温のため耐火材が不要で普通鋼で製造できる、排ガスが少なく脱硝装置がいらぬ、などのメリットがあるそうです。

**無公害** 熱分解処理の間、ダイオキシン類、煤塵、窒素酸化物が出ない、低温処理のため、排熱がほとんど出ないということで無公害とされています。

**何でも一緒に燃やせる** この装置を導入した食品加工会社は、お惣菜や弁当を作っている年商28億という大手で、大量の生ゴミやビニールなど、缶やビン以外のあらゆる廃棄物をランダムに投入していました。今、様々な規模で民間企業や事業所が導入しているところですが、補助金などのからみがあり、自治体での導入はまだ1か所だけです。小規模の装置もあるので、わが町でもその効果を試してみる価値はあると思いました。

**産業廃棄物処理の救世主となるか** この食品加工会社は廃棄物処理の費用として毎日数万円を支出していました。かなりの負担になっていたため、装置の導入にかかった1億5千万円は5年程度でペイするとのことでした。しかも残りかすが出ないとなれば、最終処分場の延命化にも貢献すると思われます。一方八丈の場合、建設業では産業廃棄物処理の法律が確立されていて、有料で厳格に処理されていますが、農業、漁業、加工業、サービス業については廃棄物処理の規制が明確でなく、一般廃棄物と同様の扱いで、わずかな負担があるだけです。



前ページより続く

これでは、新たに自前で廃棄物処理のために投資をしようという動機づけが働きません。住民は誰もが応分の負担をすべきだと思います。

**クリーンセンター建設計画の前に** 現在のクリーンセンターは、毎年数千万円をかけて修理をしながら稼働させています。施設の老朽化が進み限界に達しているため、10年後の供用開始を目途に、建て替えの計画が動き出しました。ゴミ処理の方法を見直し、限られた財源で持続可能な方法を探らなくてはなりません。今回の視察の1週間後、住民課長ら町の担当者が同じ施設を視察しました。その評価も聞きながら、町にとっての最善策を考えていきたいと思っています。

## 12月議会 25年度決算審議から

財政はますます厳しくなる一方です。庁舎建設でかなりの基金を取り崩して残額が少なくなっているのに、その後も基金に依存せざるをえない決算の実態があきらかになりました。また、財源の中で、すでに決められた支出の割合(経常収支比率)が高く、通常75%程度までが健全とされているのが、25年度は88%になっていて、町独自の政策を実現できる部分が少なくなっています。議会の追及に対して、町は見直すとはしましたが、町の様々な施設の管理費が政策的経費を大きく圧迫している状態です。

庁舎管理費は、もっとも住民が関心を寄せている経費のひとつです。IT管理費を始め、清掃、庁舎(ビル)管理委託費、様々な機械の保守点検、光熱水費に合計1億円近くかかっています。このうち委託費が占める部分が多いので、外注せずに町独自に管理できるよう求めました。町は町職員に資格を取らせるなどの改善策を提示しました。

町の水道事業も、数年前の値上げによって経営が好転したかに思われましたが、今度は維持費や漏水修理に経費が増えています。布設した管の老朽化が最大の課題です。老朽管の更新は計画的に進め、経費削減のためにあらゆる努力をして値上げを回避するよう、複数の議員が指摘しました。

さらに明らかになったのは、全体的に予算の見積もりが甘いこと。結果として不用額が多くなっています。町は細かく精査するとはしましたが、今後もチェックが必要です。

## 日本の危機言語・方言サミット in 八丈島

12月12～14日

町制施行60周年記念事業のひとつとして、文化庁国立国語研究所やアイヌ文化振興、鹿児島県、沖縄県などの後援により、多目的ホールおじゃれで開催されました。

私は、1日目の伊奈かっぺい氏の記念公演「方言で遊ぶ・方言を遊ぶ」と2日目を聞きました。伊奈氏の講演は、方言の面白さと魅力あふれる巧みな話術で、一気に引き込まれました。気負わず方言を楽しむことの大切さを実感しました。

また、各地区の現状と今後の活動について、2日にわたって、与那国、石垣、宮古、沖縄本島、与論島、奄美大島、アイヌ、八丈島が発表。それぞれの方言を残す努力、方言を継承していく取り組みが報告されました。

パネルディスカッションでは、八丈島のパネラーも加えてどうすれば方言を浸透されるのか、お互いの悩みや解決策が討論されました。消滅言語を守る取り組みは、互いに連携しながら進めるのが効果的だと感じました。





# 2014年12月議会 一般質問



## 1. 島と島の交流を盛んに

今年は、町制60周年とマウイ島と姉妹島提携50周年の節目にあたり、マウイ島から前進太鼓のメンバー52人が来島し、交流を深めました。南大東島についても、毎年10人程度の生徒の来島や議員の訪問などを通じ交流が続いています。互いの島の歴史や文化を知ることが、産業、観光、教育など、共通の課題の解決に役立っていくと考えます。

### (1) マウイ島やハワイ島との交流を継続する考えはあるか。

**町** 島に限らず、色々な町村との交流も大切だと認識している。ただ、マウイ島側のホームステイの課題や為替レートの変動で途絶えた時期もあったが、今後も続けていく。ロードレースにはこれまでどおり2人招待する。

### 再質問 英語教育を目的として中学生が訪問するプロジェクトをつくれぬか。

**町長** 多額の旅費がかかることを考えると、行きたい生徒は多数いるので公平性を確保しながらの選抜は難しい。

### (2) 南大東島との交流の拡充を考えているか。

**町** もちろんこれからも交流を考えているが、交通費だけで10万円かかるので予算面の課題がある。具体的な拡充については今後の課題としたい。

## 2. 畜産の振興を

町のふれあい牧場には現在35頭の和牛が放牧されていますが、畜産農家は数軒で、増える傾向にはありません。3年前に始まった和牛貸付事業もいまのところ拡がりがないように思います。観光や産業にとって、ふれあい牧場の役割は決して小さくなく、この牧場の利点を活かす施策が必要です。

### (1) 和牛のオーナー制度を定着・拡充させるべきと思うが町の考えは。

**町** 和牛の貸し付けは徐々に増えている。現在繁殖牛の血統改良などを研究している。制度の拡充については、牧野運営協議会で審議したうえで判断する。

### 再質問 住民に対する広報活動はしているか。わかりやすいガイドブックをつくるべきだと思うが。

**町** 現在は町の広報で知らせている。興味のある方には、直接町に出向いてもらい内容を説明している。ガイドブックは内容を吟味し作成していく考えだ。

### (2) 屠場の整備を行ない、島内で肉が食べられるようにできないか。

**町** 町の屠場は牛、ヤギをとさつ解体が出来るよう区分けされていて、食肉加工施設として整備している。

**再質問** 施設があるのであれば、利活用すべきだ。まずはこれまで島外に出していた廃牛（廃用牛）を食肉利用してほしいと思うが。

**町長** ブランド牛を開発するなら支援もするし意味があると思うが、廃牛では意味がない。

\*廃用牛…出産を終えたメス牛や乳量が低下した牛。食肉利用されるが、主に加工肉用に利用されている。

## 12月議会 私の一般質疑の発言から

● **町歌** 町制60周年記念で公募して町歌ができたが、作詞作曲された方々に謝礼を差し上げるべきと思うが、出しているのか。

町 作詞の方は旅費のみ。花や焼酎は差し上げた。町としては将来にわたって名が残ることが名誉だと考えているので、そちらで対応する。

● **インフルエンザ予防接種** 子どもは1回目3800円、2回目2000円が高いと思う。全国平均は1回3000円であり、2回接種でも5000円。無料の地域もある。また、毎年出ている学級閉鎖も大きな損失だ。町として対策を。

町 病院の判断で2回目は1800円を値引きしている。今後は検討したい。

町 高齢者は町の補助で2000円だが、子どもについては今後の課題だ。

● **システム管理費** 新庁舎に移転による管理費が2000万円かかっている。来年度からは、維持管理費だけになるが、どの程度になるか。

町 新システムにより庁内の相互通信が可能になった。来年度からも保守点検に800万円、経常経費に800万円かかることになる。

● **出生率** 25年度の出生数は40人で、前年度より13人も減少している。出産祝い金を増額するなど、なにか町として対策をたてるべきではないか。

町 定住促進と人口増加に向けてプロジェクトを立ち上げたばかり。何ができるのかを検討中であり、もう少し待ってほしい。

● **事業系ゴミ** 600近くある事業所に対するゴミ収集費用が年間平均5000円で、ずっと変わっていない。適正な負担をお願いするべきでは。

町 現在は1kgあたり4円で、どれくらいがいいのか審議会で検討したい。

● **ショートステイの利用** 要支援や介護度が低い方が利用すると手続きが煩雑だと聞いているが。

町 窓口は地域包括支援センターになるが、個人負担や限度額があるので書類などの手続きが必要になることがある。

● **特別養護老人ホームやショートステイ** 男性と女性はそれぞれ別室になっているか。

町 現状ではすべてとは言えないができる限り別室になるよう配慮している。



### 編集後記

2月15日(日)、多目的ホールで連合婦人会の総会がありました。これまでは公民館の床にごさを敷き、座布団を置いて会場づくりをしていましたが、昨年からおじゃれホールになり準備作業がずっと楽になったそうです。

婦人会の活動は、町の事業の多くにかかわり、陰で支える大きな力になっていますが、町や住民のために働くだけでなく、自らも楽しんでいるのが素晴らしいと思います。

午後の催し物も、各地区に芸達者がそろってユーモアたっぷり。日頃の活躍と、思いがけない才能に心から拍手！！でした。